



2020年度通常総会開催の報告

2020年度通常総会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、集合して開催するのを避け、書面決議で行いました。理事会が提案した議案に対して活動会員に書面で意思表示をいただいたうえ、6月27日(土)、代表理事と理事・事務局長によって、活動会員58名のうち意思表示のあった47名全員の賛成を確認しました。

その結果、2019年度活動報告及び収支決算報告、2020年度活動計画及び収支予算、新たな任期の理事及び監事について原案どおり承認されました。

2019年度は、月平均6・7回(年間76日)のペースで開設し、1,755件の電話を受けました。また、チャイルドラインこうち受け手養成講座を開催し、新たに8期生の受け手を迎えたほか、4年ぶりにリーフレットを改訂し、支援者の拡大に活用しました。

10周年を迎える2020年度は、子どもの声に耳を傾ける電話の開設を基盤とし、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、広報啓発、研修等に努めてまいります。

2019年度の収支決算は次のとおりで、多くの方から寄付をいただいたことで、当期収支差額は約85,000円の黒字となっております。

2020年度も子どもたちのために、よりよい活動ができるように実践してまいりますので、ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

①収入合計：865,961円	会費収入	327,000円
	寄付金収入	299,426円
	助成金収入	154,393円
	受講料収入	72,000円
	その他収入	13,142円
②支出合計：780,408円	研修費・渉外費	188,083円
	広報費	60,700円
	事務所費	276,000円
	事務費・通信費等	255,625円
③収支差額(①-②)		85,553円
④前年度繰越金		540,001円
⑤次年度繰越金(③+④)		625,554円

新型コロナウイルス感染防止対応

新型コロナウイルス感染拡大のため、4月9日～6月3日まで活動を自粛していましたが、6月4日より、下記のような感染防止対策を遵守し活動を再開しています。

- ・受け手、支え手等の人数を前半・後半それぞれ5名以内とする。
- ・手指消毒・受話器の消毒をしっかりと行う。
- ・マスクを着用する。
- ・事務所内の換気を行う(1時間毎に窓を開放)。
- ・座る場所の間隔を空ける(ソーシャルディスタンス)。
- ・不要の会話は避ける。

活動自粛直前及び再開直後に寄せられた子どもたちの声

(※全国の子どもたちからの声です。チャイルドラインこうちで受ける電話には、全国の子どもたちからの声が届きます。)
(※プライバシーに配慮して、内容を再構成しています。)

「家にずっといるので退屈。子どもが我慢してるのに、外に出て大勢の人と遊んで、コロナに感染しても公表しない大人はだめだと思う。」

「高校の卒業式が中止になり、好きだった子に告白できなかった。大学に合格したけど取り消しになるのではと不安。コロナのことで世の中が終わってしまうのではないかと不安。」

「コロナでいろいろと環境が変わったり、店が閉まっていたりすることが気になる。」

「学校が再開されるので嬉しい。暇だったから見えていなかったものが見えた。お母さんの家事の大変さなど。」

「小学校が休校になって友だちに会えなく寂しいし、卒業式の練習も中止になって不安」

「入学後は分散登校だから、まだ会ってない人と全員授業になったら不安で怖い。」

「新しいクラスでの友人づくりや勉強、部活、全てが突然始まって忙しい。ついていけなくてつらい。」

「学校に行きたい気持ちはあるけど、なかなか行けない自分。家族の優しさに応えられなくてまた自分を責めてしまう。」

ご寄付のお礼 (2020年3月～7月)

ご寄付をいただいた皆様をご紹介します。皆様のご理解とご支援に感謝申し上げます。

<企業・団体の皆様>

- 医療法人めばえ様 10,000円
- 高知とさみずきライオンズクラブ 10,000円
- 食家「雅」様 3,000円(寄付つきメニューより/1～6月分)
- (株)Climb the steps様 1,000円(寄付つきメニューより/3～7月分)

<個人の皆様>

浜田義文様、森澤豊様、澤田由紀子様、ほか匿名2名

本会の活動・運営は、会員の会費、皆様の寄付等により成り立っています。今後ともよろしくお願いいたします。

◆会員数(2020年8月1日現在)

活動会員 58人
支援会員 37人・団体

2020～2021 年度理事・監事のみなさんをご紹介します。 よろしくお願ひします。

理 事

(代表・副代表・会計・事務局長のほかはアイウエオ順に紹介しています。)

せきだ ひろみ
関田 浩美



代表

4 人の子育てを通じて、PTA活動やボランティア活動に関わり、保護者や子どもたちの支援をしています。2000 年から地域の小学校の読み聞かせボランティア、2007 年から高知市交通安全指導員、高知市保育サポーター（よちよちランドスタッフ）、2008 年から保護司、2013 年から初級教育カウンセラー、2014 年から人権擁護委員、2015 年から高知市放課後学習室アドバイザー等、現在も継続して活動中。

(再任：2010～2019 年度理事)

くれ チョンヘ
呉 静恵



副代表

ナイチンゲールの精神に憧れ、看護師に。3 人の子育てを体験。2005 年から人権教育等の講演活動。2007 年から若者サポートステーションで不登校・引きこもり支援。また、家庭教育サポーターとして心の教育センターの電話相談員を務め、2010 年たんぼぼ教育研究所で相談活動を行い、夫の両親を介護した体験から在宅で看取る事の大切さを学び、2015 年でのひら訪問看護リハビリステーションを設立。

(再任：2010～2019 年度理事)

のむらわか
野村 和可



会計

PTA活動や子どものスポーツ活動に精を出した約 18 年間。その活動の中で大崎博澄さんと出会いました。その一つがチャイルドラインこうち設立準備会。自身の活動や仕事が忙しく、設立後は参加できないまま時間が過ぎました。子どもが巣立ち、自身の生活を見つめ直した時、これからの人生に新たな取組をプラスしたい思いが募り、チャイルドラインにも自分のできる範囲で関わりを持ちたいと、2018 年より広報部会で活動に参加するようになりました。

(新任)

はんだまさのり
半田 雅典



事務局長

1994 年（福）高知県社会福祉協議会に就職し、ボランティア活動の推進、NPOの支援及び福祉人材の確保・育成等に携わっています。1998 年高知豪雨、2011 年東日本大震災など大規模な災害が発生した際には災害ボランティアセンターの立上げ・運営に関わってきました。現在は福祉人材部長（兼）高知県福祉人材センター所長。2011 年から 2019 年まで NPO 法人 NPO 高知市民会議の副理事長を務めました。

(再任：2014～2019 年度理事)

いけみき
池 美季



会計

看護師。1980 年より土佐病院、精神科勤務。1990 年退職して、育児を主に過ごし、1999 年高知市医師会急患センターの平日夜間小児に従事する事となり、小児研修の中で呉理事と出会いました。2011 年の東北震災の日より高知子ども救急ダイヤルに 8 年従事。チャイルドラインこうち高知開設メンバーで現理事。2020 年 6 月より一般社団法人 FHA 開設。地域の家庭と医療の間の架け橋となる家庭急病ダイヤルをオープン。

(再任：2010～2019 年度理事)

かわくぼたから
川窪 財



事務局長

2001 年広告代理店を退社後、起業と同時にこどもに關するボランティア活動等を始めるなか、話を聞く力の重要性を感じ、わもん（話聞）を学びながら、こころを聴く「心聞士」を目指し、2011 年話の聞き方を学ぶ市民講座「井戸端わもん」を高知で開始。2014-15 年東北で被災地の住民の話を聞く慈善活動を行い、2016 年 NPO 法人井戸端わもん設立、代表理事就任。現在も話の聞き方講師として各地で活動中。

(再任：2012～2013 年度理事)

なかむら
中村 ささみ



代表

1975 年～2005 年県立病院勤務。特に「未熟児室（当時の名称）」勤務時は、子どもとの権利、母子関係に関心を抱くように。定年退職後 2005 年、高知県看護協会勤務。子どもに関する事業としては、高知県の委託を受け「#8000」の夜間子ども救急医療電話相談事業の組織化、運営に取り組みました。看護協会退職と同時に、当会の理事に就任。カード配布、学校訪問、寄付金募集活動等、広報部員として現在に至っています。

(再任：2012～2019 年度理事)

はたけなか ようこう
畠中 洋行



代表

1979 年大学時代の仲間と榊若竹まちづくり研究所を設立し、住民参加によるまちづくりに取り組み、2006 年 6 月末同研究所を退職後、認定 NPO 法人 NPO 高知市民会議事務局長に就任。2013 年 6 月に退職。2007 年に『とさつ子タウン』のしくみを立案し、以後運営に携わるとともに、2011 年には『こうちこどもファンド』の立ち上げに携わり、2012 年から同ファンドのアドバイザーとして関わっています。

(再任：2016～2019 年度理事)

ひらやま ゆき恵
平山 幸恵



代表

高度成長期に安芸で生まれ、おばあちゃんっ子で育ち、家庭＝祖母は、自分が自分である居場所でした。バブル期 20 代、大阪の幼稚園で大好きな子どもたちから学ぶ日々 & 自分を生き、バブル崩壊後安芸で妻・母となり、30 代子育てを楽しみました。仕事と子育ての傍ら、40 代 PTA 活動に始まり、学びを求めて西東、人の縁に導かれチャイルドラインへ辿り着き、50 代ライフワークとなりました。めざすは子どもたちの心の居場所なり。

(新任)

ほんじょうきんし
本淨 謹士



代表

以前、受け手養成講座でお話しさせていただき、その後理事となり今に至っています。2001 年から高知で小児科診療に携わる一方、発達相談を通じて困難さを抱えた子どもと保護者の対応を行なっています。当会と並行して、県内の支援者の関係づくりとスキルアップを目的とした団体である、子育て支援ネットワークほっとぼーとこうちの理事として活動しています。

(再任：2014～2019 年度理事)

監 事

おかだ かつみ
岡田 一水



代表

1996 年株式会社高知銀行に入行。2017 年より高知大学特任准教授としてキャリア教育に従事。キャリアコンサルタント。高知県内の小中高等学校や大学などの教育機関と連携し、主に金融教育やコミュニケーション力、思考の多面的展開などのキャリア教育支援も行なっています。また、地域活動の一環として、様々なボランティア活動にも従事するなど、幅広い活動を行なっています。

(再任：2016～2019 年度監事)

のむら
野村 ひとみ



代表

2010 年 3 月高知市役所を退職、引き続き初月ふれあいセンターやソーレに勤務。ソーレ退職後は、貢献をテーマに自分の好奇心のおもむくままボランティア活動や住民参加によるまちづくりに取り組んでいます。特に、高知出身の奥村多喜衛、ハワイと高知の交流、男女共同参画に関する事は熱心に取り組んでいます。2017 年からスクールカウンセラーとして週 2 回程度学校に関わっています。

(再任：2016～2019 年度監事)